

第130回日本眼科学会総会ランチョンセミナー21 (LS21)

2026年4月10日(金) 12:00 ▶ 13:00

Room11 (マリンメッセB館 2F 会議室1)

# バイオシミラーと歩む これからの網膜硝子体診療



座長

辻川 明孝先生

京都大学大学院医学研究科 眼科学 教授

1993年	京都大学医学部 卒業	2005年	京都大学医学部附属病院 眼科 助手
1994年	倉敷中央病院 眼科	2009年	京都大学大学院医学研究科 眼科学 講師
1996年	京都大学大学院医学研究科	2014年	香川大学医学部 自然生命科学系眼科 教授
1999年	Children's Hospital Boston 留学	2017年	京都大学大学院医学研究科 眼科学 教授
2001年	神戸市立中央市民病院 眼科		

現在、網膜硝子体疾患の治療において抗VEGF薬は不可欠な治療薬となっています。一方で、高薬価なバイオ医薬品は国民医療費に大きな影響を及ぼしており、滲出性加齢黄斑変性など長期治療を要する疾患では、患者さんの自己負担が治療継続の障壁となっているのが現状です。このような背景のもと、本年1月にアフリベルセプト2mgのバイオシミラーが発売され、臨床現場および医療経済の両面から大きな期待が寄せられています。

本セミナーでは、「バイオシミラーと歩むこれからの網膜硝子体診療」をテーマに、網膜硝子体診療ならびに医療経済に精通されている岐阜大学の久富先生、ならびに、海外におけるバイオシミラーの実情に造詣の深いLotus Eye HospitalのSharma先生をお招きし、ご講演いただきます。

本セミナーを通じて、バイオシミラー時代における網膜硝子体診療の将来像について、皆様とともに考える機会となれば幸いです。多数のご参加を心よりお待ちしております。



講演 ①

## 抗VEGF薬バイオシミラーの 発展と意義

久富 智朗先生

岐阜大学医学部 眼科学教室 教授



講演 ②

## Biosimilars in Retinal Disease: Evidence Is Clear—Are We?

Ashish Sharma先生

Department of Vitreoretina, Lotus Eye Hospital and Institute, Coimbatore, Tamil Nadu, India

# バイオシミラーと歩む これからの網膜硝子体診療



講演 ①

## 抗VEGF薬バイオシミラーの 発展と意義

久富 智朗先生

岐阜大学医学部 眼科学教室 教授

1996年 九州大学医学部 卒業  
1999年 九州大学大学院  
2005年 米国Harvard大学MEEI研究員  
2011年 国立病院機構九州医療センター 眼科 科長  
2018年 九州大学大学院 医学研究院 眼科 講師  
2018年 九州大学大学院 眼病態イメージング講座 准教授  
2025年 岐阜大学医学部 眼科学 教授

近年の分子標的薬の発展は目覚ましく、これまでの内科系、外科系領域の疾患に続き、2021年より眼科領域においてバイオシミラーが承認された。医療現場のさまざまなニーズに応える形でバイオシミラーの開発が進み、眼科領域でも治療選択肢が増加し、使用機会が増えてくると考えられる。

眼科の治療標的となっている分子は血管内皮増殖因子 (Vascular endothelial growth factor; VEGF) であり、村田敏規らは網膜におけるVEGF発現上昇を報告し、Joan Millerらは眼内の血管透過性亢進や血管新生にVEGFが重要であることを証明した。網膜虚血や慢性炎症に引き続いて、血管透過性亢進と血管新生が起こり、血管内容物、炎症細胞、血漿蛋白、サイトカイン、アデノシン三リン酸 (ATP) などが血管外へと漏出し、神経細胞死を引き起こして、病態が増悪する。新たな治療法として抗VEGF抗体薬の開発へとつながった。

今回、眼科領域におけるバイオ医薬品・バイオシミラーの発展と現状、そしてバイオシミラーのもたらす未来への期待について概説する。



講演 ②

## Biosimilars in Retinal Disease: Evidence Is Clear—Are We?

Ashish Sharma先生

Department of Vitreoretina, Lotus Eye Hospital and Institute,  
Coimbatore, Tamil Nadu, India

**Biography:** Dr Ashish Sharma is an internationally recognized Retinal specialist and leading authority on biosimilars in retinal disease. He completed his clinical retina and research fellowship at the University of California, Irvine, USA, and served as a Clinical Instructor. He has previously been on faculty at LV Prasad Eye Institute, Hyderabad, and is currently associated with Lotus Eye Hospital, Coimbatore, India.

Dr Sharma chairs the International Retina Biosimilar Study Group, serves as a Board Member of the Retina World Congress, and has delivered invited lectures on retinal biosimilars in 15 countries worldwide. He has authored over 150 PubMed-indexed publications, holds one granted patent and two pending innovations, and has been listed among the Stanford Top 2% World Researchers in Ophthalmology for four consecutive years.

**Abstract:** Biosimilars are increasingly used in retinal diseases, supported by robust analytical, clinical, and real-world evidence demonstrating comparable efficacy and safety to originator biologics. Despite this, hesitation persists in clinical practice. This lecture examines current evidence, addresses common concerns, and explores the gap between data and adoption in retina care.